

総務文教委員会記録

令和6年8月20日（火）

13時30分～15時33分

第2委員会室

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員

【議長・委員外議員】 笹田議長

【執行部】

（教育委員会）草刈教育部長、藤井教育総務課長

【事務局】 松井書記

【議題】

1 継続審査中の請願について

（1）請願第11号 学校給食の自然塩（天然塩）使用の請願について

2 【取組課題】 地域交通について（委員間で協議）

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 30 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は5名で定足数に達している。西田委員から欠席届が出ている。それではレジュメに沿って進める。

1 継続審査中の請願について

(1) 請願第11号 学校給食の自然塩（天然塩）使用の請願について

○芦谷委員長

この請願については、前回の委員会で、現在学校給食で使用されている塩の種類や成分について執行部に説明を求めることとしており、本日は教育部長と教育総務課長に出席いただいている。

はじめに委員にお願いする。執行部への質疑はあくまで請願審査の参考とするための現状等の確認にとどめてもらいたい。執行部の意見や見解を問うものではない。

それではまず、担当課から説明をお願いする。

○教育総務課長

現在学校給食で使用している塩の種類と成分について説明する。

一覧表を配付しているが、浜田と金城の学校給食センターでは同じ塩を使っており、公益財団法人塩事業センターが製造販売している「食塩」という製品名の塩を使っている。原材料は日本の海水が100%である。

次に、旭と弥栄の学校給食センターと、三隅については小学校2校と中学校1校でそれぞれ給食を作っているが、伯方塩業株式会社が製造販売している「博多の塩」を使っている。こちらの原材料は、メキシコまたはオーストラリアの塊の天日塩93%に日本の海水7%を混ぜたものである。

参考として、公益財団法人塩事業センターの「精製塩」という製品についても載せている。給食センターではこの「精製塩」を使っているのではないかという問い合わせを何度かいただいたので、浜田と金城で使用している「食塩」との違いを示すために掲載している。

また、それぞれの塩のカリウム、カルシウム、マグネシウムの含有量については、文部科学省が公表している日本食品標準成分表に「食塩」と「精製塩」の記載があるので含有量をご確認いただきたい。給食では1食当たり2gから2.5gの塩分と定められているが、これは味噌やしょうゆ、コンソメなどにも塩分が含まれているので、それらを使用する場合は食塩を全く使わない日もある。

旭、弥栄、三隅で使っている「伯方の塩」については、商品パッケージの記載を見ると、含有量にばらつきがあると記載されているため平均値で示すが、100g当たりカリウムが80mg、カルシウムが125mg、マグネシウムが150mgで、浜田と金城が使用している「食塩」よりカリウムは少なく、カルシウムとマグネシウムは多いというこ

とになっている。

○芦谷委員長

委員から、請願審査の参考とするために、執行部や紹介議員に確認しておきたいことがあればお願いします。

○村武委員

市内の各給食センターで使っている塩を紹介してもらった。浜田と金城は「食塩」という塩を使っており、あとは「伯方の塩」とのことだが、なぜ違う塩を使っているのか。

○教育総務課長

各給食センターで献立が異なっており、栄養教諭がそれぞれ付いて地域の食材に合わせるなど献立を独自に作られているので、何を使うかについても栄養教諭の裁量で異なっている。

○村武委員

前回の委員会で、請願者の考えを確認してほしいという声があったため、紹介議員の一人として私が確認した。

請願書には天然塩と書かれているが、6月の委員会で教育総務課長から、国産ではなく海外産であれば価格が安いものもあるという答弁があったと思う。国産ではなく海外の塩でも良いのか請願者に確認したところ、海外のものでもミネラル分が多ければそれでも良いということだった。

○芦谷委員長

請願者の願意は、子どもの成長にとってより良いものということか。

○村武委員

教育委員会からは、自然塩、天然塩という表示を現在ではしてはいけないという資料を提供してもらった。この請願書にはそういった言葉が書いてあるが、請願者は細かいところまではなかなか理解しておられなかった現状がある。私自身も理解していなかったのもので、使ってはいけない言葉が出ているかもしれないが、ミネラル分が多く含まれている塩を使ってほしいという願意であることを確認した。

○芦谷委員長

ほかの委員から何かあるか。

○岡本委員

請願の趣旨は、精製塩ではなく自然塩、天然塩を使ってほしい。その意味合いはミネラル分が多いほうが良いのだということである。私はこの請願については、精製塩より天然塩のほうが良いということであればそれが良いという単純な考えで発言したのだが、執行部からは、自然塩といった言葉は使えないといった説明があった。ミネラルという観点からは、給食現場はどういう考え方を持っているのか。そういう成分は入っているからそれで良いと思っているのか、入ってなくても良いということなのか。

○教育総務課長

実際に栄養計算をしている栄養教諭の集まりがあった際に出向いて話を聞いた。まず話があったのが、もちろんマグネシウム、カルシウム、カリウムが必要だという認識はそれぞれ持っている。給食の栄養計算は全て行っていて、小学生、中学生それぞれに決まった必要量が摂れるように献立を決めているので、塩だけから摂るということではなく、給食全体では確実に網羅しているという話だった。あとは塩に含まれているミネラル分が微量であることと、1食当たり2gから2.5g使うという決まりがあるが、それは塩分の量であり、味噌やソース、しょうゆ、ドレッシングなどを使った場合はそこに含まれる塩分も計算するので、食塩自体を使う献立が毎日あるわけではなく、あったとしてもわずかな量なので、現実的に塩からミネラル分を摂ろうと思うと大量の塩を摂らなければならない。そういう面から言うと、例えばマグネシウムやカルシウムを塩から摂ることは考えにくいという話を聞いた。

○岡本委員

ということは、ほかの食材からもミネラル分を摂れるので、あえて塩から摂ることは考えていない。だから、請願者からミネラル分が多く含まれる塩を使ってくれと言われても、実際の給食はそれらの成分をほかからも摂っているの、そこには軸足を置いていないという解釈で良いか。

○教育総務課長

栄養教諭の見解はそういう話だった。また、自然塩や天然塩とはろ過をしていない塩だと一般的には言われており、ろ過をしないのでミネラル分が残るのは確かだが、ろ過しないことによって、例えば海水に溶け出している金属やプラスチックなど、目に見えないごみもろ過されていないので、給食に提供することには慎重にならざるを得ないという話があった。

○岡本委員

ろ過されていない部分に、もしかしたら不適當なものがあるかもしれないということを、どこかが回答しているのか。

○教育総務課長

一般的には、ろ過していないので、海水をそのまま乾かしたものである。日本の成分表示のところに、食塩、精製塩、粗塩というものがあるが、天然塩や自然塩という表記は使えないことについては、何をもってそれだとはっきり言えないことと、日本には表記が存在しないため検査せず、公正マークや適合マークが付いていないので、給食で認可マークが付いていないものを使うのは、実際は難しいのではないかということだった。

○岡本委員

もらった資料が全てを網羅しているわけではないが、自然塩、天然塩という言葉は使えないが、学校給食で使っている食塩は精製塩ではなく、いろいろな成分が入っている、ゼロではないということである。ある程度ろ過しているから、不健康なものだとは認識していないという見解だと認識して良いか。

○教育総務課長

おっしゃるとおりである。

○永見委員

浜田と金城の給食センターで使われている塩は、日本の海水で作られたものか。

○教育総務課長

浜田と金城で使用している「食塩」は、国産の海水のみということである。

○永見委員

旭、弥栄、三隅で使われている「伯方の塩」は、メキシコ、オーストラリアの天日塩に日本の海水を入れたものか。

○教育総務課長

製造方法に違いがある。浜田と金城で使っている「食塩」は工場で煮詰めて作ったもので、イオン膜によるろ過をしている。旭、弥栄、三隅地域で使っている「伯方の塩」は、外国から輸入している固まった塩を一度日本の海水で溶かして、それをもう一度塩にしている。その海水の中に入っているにがりなどがミネラルになっている。

○永見委員

では「食塩」にしても「伯方の塩」についても、ろ過はやっていて不純物は混ざっていないという理解で良いか。

○教育総務課長

「伯方の塩」はイオン膜でのろ過はしていないのでミネラル分が残っているが、多分海水が7%なので、100%の海水をろ過していないわけではないということだと思う。

○永見委員

日本の海水と輸入した塩を混ぜて、ろ過はしていないのか。それなら不純物が混ざっている可能性があるのか。

○教育総務課長

イオン膜でのろ過をしていない。イオン膜はとても細かい網目なので、ろ過すると不純物はほとんど取り除かれる。それをやっているのが「食塩」で、「伯方の塩」はイオン膜でのろ過を行っていない。

○永見委員

「食塩」のほうは、不純物はほぼないという解釈か。

○教育部長

不純物というのが何かということだろうと思う。ミネラル分という意味での除去ということなのか、海水に溶けないものは「伯方の塩」でも当然除去されているだろう。ミネラル分について言えば、網目の大きさによって残る手法と残らない手法がある。

○永見委員

イオン膜と溶解の違いは何か。

○教育部長

溶解というのは溶かすという意味で、イオン膜というのは膜を通して浸透圧の差

によって濃度の濃いところを釜で乾燥させる。イオン膜は塩化ナトリウムを通すが、それより大きいイオンは通さない。その辺の違いを理解していただければよろしいかと思う。

○村武委員

旭や弥栄で使用している「伯方の塩」の単価を教えてください。私が調べたところでは、1kg当たり410円くらいだった。「食塩」は1kgで110円くらいだったか。

○教育総務課長

134円くらいである。

○村武委員

多分、伯方の塩のほうが高いのではないかと思う。

○松井書記

メーカーのホームページで価格改定の記事を見ると、1kg当たり税別425円と書かれている。

○村武委員

浜田と金城で使っている「食塩」と、その他の地域の「伯方の塩」の単価が結構違うが、価格はあまり気にしていないのか。

○教育部長

多分3、4倍の価格差だと思うが、年間の使用量が給食費にどの程度影響するかということでは大勢に影響はない。旭、弥栄、三隅の給食費の中で十分やっていけるという判断の下でメニューや使用する塩が決まってくるので問題ない。

○芦谷委員長

暫時休憩する。

[13 時 56 分 休憩]

[14 時 07 分 再開]

○芦谷委員長

委員会を再開する。発言はないか。

○沖田副委員長

学校給食の塩について説明を受けた。請願の願意は、学校給食に不足しているミネラル分が多ければ良いという意味であるとの説明が紹介議員からもあった。

そもそも学校給食で考えたときに、塩分の使用量が1食当たり2gから3gという決められた量がある。これは味噌やしょうゆなどのほかの調味料も含んだ量であり、学校給食に使っている食塩の量は微量で限定的である。学校給食全体を考えると、栄養教諭もいて、子どもたちに必要な栄養素をどう摂取させるかを考える場合、食塩ではなく他の食材から効率的に摂る方法もあると思う。栄養教諭がそういった栄養分についてどういう考えを持っているかは我々も分からないので、もし何か分かれば披露してもらいたい。

○教育総務課長

この件については栄養教諭もかなり関心を持っている。今まで何度か集まった際に話を聞いたが、例えば今回の請願が浜田で作っている塩を使うということであれば、地産地消や食育の観点から理解できるが、産地は特に問わずにミネラル分が入っているものという考え方だと、そもそも給食の塩分は味噌やしょうゆなどに含まれる塩分も合わせて1日2gから2.5gなので、メニューによっては塩を使わないこともある。

「伯方の塩」のほうが含まれるミネラル分は多いが、例えば焼きのりを1枚食べるとカルシウムは5.6g、マグネシウムは6gなど、5倍から6倍のミネラルが摂れる。

給食は減塩の方向で、塩は少し野菜はたっぷりでやっているなので、塩の量を増やすということは考えていない。そういうことも含め、栄養教諭からすれば、塩からミネラルを摂るとするのは現実的に難しいという話だった。

○芦谷委員長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

この件の後の始末だが、今日は西田委員も欠席のため、今日のところは皆に質疑をしてもらい、課題や問題点を把握したという理解で、9月定例会議中に採決したいと思うがどうか。

(「異議なし」という声あり)

ではここで、執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

○村武委員

ほかの自治体でミネラル分が多く含まれた塩をどれくらい使っているのか調べてみたところ、全部は分からなかったが数件あった。北海道千歳市は「瀬戸のほんじお」という塩を使っていて、今浜田市が使っている塩よりもミネラル分が多い。なぜそれを使っているのかと栄養士に聞いたところ、味覚を育てたり、ミネラル分のこともあるし、味がまろやかになると言っておられた。千歳市はほかの調味料などもかなり気にして、そういった観点から使っているという話だった。9千人分の給食を作っておられ、1食当たりの給食費が247円から300円くらいだった。

また、沖縄県うるま市はかなり良い塩を使っている。地元ですごく良い塩を作っている企業があり、そこから無償提供されている。予算を掛けると相当なものになるので、無償でないと使えないかもしれないと言われていたが、ミネラル分を多く含んだ塩を子どもたちに食べさせたくて使っている、地元の食材なので食育の意味もあると言われていた。

○芦谷委員長

願意にあるように、子どもの成長に良いことに取り組んでいる事例を紹介いただいた。この議題は終わってよろしいか。

(「はい」という声あり)

ここで暫時休憩する。

[14 時 15 分 休憩]

[15 時 20 分 再開]

2 【取組課題】地域交通について（委員間で協議）

○芦谷委員長

委員会を再開する。

前回も話したように、地域井戸端会に出席した各委員から、各地域での地域交通についての意見を報告してもらい、それを私がメモでまとめて配付している。ただ、地域井戸端会に行った先でなお触れられてない部分があり、前回の委員会では、各まちづくりセンターへ出向いてもう少し掘り下げて実情を聞こうという提案があった。今日はまちづくりセンターへの意見聴取について提案しようと思っている。

○沖田副委員長

あいのりタクシー事業を実施している地区まちづくり推進委員会が確か15団体あったと思うが。

○松井書記

市の公共交通計画によると令和4年度の実績が13団体だったが、そこから増えたのかもしれない。

○芦谷委員長

確認のため、暫時休憩する。

[15 時 22 分 休憩]

[15 時 23 分 再開]

○芦谷委員長

再開する。

○沖田副委員長

今、あいのりタクシーを導入しているのは旧那賀郡だけだが、15団体あり、全部まちづくりセンターが事務局を担っている。浜田市でやっている地域交通の課題や改善点や良い点などをよく調べた上で、他の先進事例と比較する必要があるのではないかと思う。15団体なので全委員6名が2から3のまちづくりセンターへヒアリングに行き、今浜田市が取り組んでいる地域交通に対する課題をあぶり出すということをやる必要があると思うがどうか。

○芦谷委員長

という提案である。早く進めなければいけないので、あいのりタクシー事業の事務局を担当しているまちづくりセンターへ委員が手分けして出向き、状況等についてさらに深掘りするということに決定してよろしいか。

（ 「はい」 という声あり ）

○沖田副委員長

視察との兼ね合いもあるので、いつまでにという期限と、各委員がどのまちづくりセンターへ行くかを大まかに決めても良いと思うがどうか。

○芦谷委員長

了解した。1施設につき1時間程度だろう。ヒアリングに行ってもらい最終期限だが、急ぐことなので、できれば9月の総務文教委員会までにできないか。総務文教委員会はいつだったか。

○松井書記

9月10日である。

○沖田副委員長

9月定例会議は決算認定もあるので、できれば9月末まで猶予をもらったほうが良いと思う。

○芦谷委員長

では9月定例会議の最終日までには終わるように協力をお願いしたいがよろしいか。
(「はい」という声あり)

○沖田副委員長

今西田委員がおられないが、委員が希望するまちづくりセンターがあれば、今日この場で聞いておきたい。

○岡本委員

一人で行くのか。

○沖田副委員長

一人で行けば2、3施設で、二人で行くなら5施設ということになる。

○永見委員

私は二人で行くのが良いと思う。一人だと視点が偏る可能性もあるので、二人の視点で確認して帰ったほうが良い。

○岡本委員

あいのりタクシー事業の話が主なので、2時間も3時間も掛からないだろう。私も二人一組のほうが良いと思う。

○沖田副委員長

それは二人一組でも良いと思う。ただ、聞く項目だけは統一しておいたほうが良いと思う。こういうことを聞いたほうが良いと思うことを、あいのりタクシーの事務局としての課題はもちろん、それ以外で気づいた点などがあれば教えてほしい。永見委員は今福で実践されているので、こういう点を聞いたほうが良いといった意見があれば披露してもらいたい。

○永見委員

あいのりタクシーの場合、窓口になるところがまず肝要で、利用を希望する2人以上を振り分けてマッチングする必要があるので、そこを聞かないと運行に差し支える。そのあたりは必ず聞いておいてほしい。マッチングについても、どういう目的で使うかを主体に組まないと、買い物での利用者と通院での利用者ではマッチングにならない

い。そのあたりも含めて確認してほしい。

○芦谷委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

では二人一組ということなので、正副委員長と事務局で相談しながら割り振りする。それとヒアリングする項目も整理して。9月定例会議の終了までにやってもらう。それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのように、よろしくお願いします。

○村武委員

ヒアリングに行った後に、また委員会を開くということか。

○芦谷委員長

次の日程については9月定例会議中に相談しよう。

○村武委員

承知した。

○芦谷委員長

ではこれで、総務文教委員会を終了する。

[15 時 33 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦 谷 英 夫